

# 町民の知恵と情熱織り込み 協働でできる町づくりを全力

平成十七年度の町政の進む方向を決める、第一回町議会定例会が二月二十二日から三月十一日まで開かれ、十七年度の一般会計予算などが原案どおり可決されました。初日には、沼崎喜一町長が「町民の皆さまの参画を得ながら、知恵と情熱を織り込むべく、町民の皆さまと協働できる町づくりのため、全力を傾注する決意です」と第七次山田町総合発展計画の五つの柱を基本に、本年度の基本方針を述べました。今号では、施政方針の主な内容と十七年度予算の中身を紹介します。



施政方針を述べる沼崎喜一町長

## 施政方針の内容

においても合併推進協議会が組織され、拠点漁協となる山田地区一漁協実現に向けて協議が進められており、引き続き支援してまいります。山田漁業協同組合連合会の山田魚市場における衛生管理について、漁業経営構造改善事業で、新たに紫外線海水殺菌装置、電解海水防汚除菌装置、海水ろ過機などの整備を助成し、水産物食品の安全性を確保し、より新鮮で安全な水産物を提供できるものと期待しております。

漁業後継者の育成は、「水産グループ21」の中で、若手漁業者に学習の機会を与え、小中学生に対しては、漁業体験学習を実施してまいります。漁港、漁村の整備については、県事



地域活性化のため産業、技術、人材など地域にあるさまざまな資源を掘り起こし、有効に活用することが重要で、カキの水揚げ作業

平成十七年第一回山田町議会定例会が開催されるに当たり、平成十七年度における町政運営の基本的な考え方ならびに主要な施策について申し述べ、町民ならびに議員の皆さまのご理解とご指導をいただきたいと思っております。私は、昨年七月、町民の皆さまの負託を受け、二期目の町政の重責を担うこととなりました。

今年、第七次山田町総合発展計画

## 情報化社会に適応し、地域特性を生かす産業のまち 水産業の体験型観光を推進

地域活性化の潜在的な核となるのは、「地域資源の有効活用」であると思えます。地域の産業、技術、人材、自然環境、文化、歴史などが地域が持っているさまざまな資源を掘り起こし、地域住民の知恵と工夫によって有効に活用することが重要であると考えます。水産業の振興については、生食用殻

付きカキの生産十二億円台維持、増大を目標に、ノロウイルス対策、販路拡大の充実を図るため関係機関への積極的な働きかけや消費拡大に向けたイベントなどを支援してまいります。岩手県漁協系統は、平成十七年度末十一拠点漁協、十九年度末県一漁協に合併する決議をしております。本町に

業として行う船越・大浦漁港広域漁港整備事業、大沢漁港機能高度化事業の促進により、着実な整備が図られるとともに、漁業集落環境整備事業は、大沢地区は平成十七年度で事業が完了します。田の浜地区においては、十八年度事業完了に向けて、集落排水、集落道の整備を進めます。

農業については、昨年十一月一日完全実施された「家畜排せつ物の管理の適正化および利用促進に関する法律」に対応するため、「山田町堆肥センター」を建設し、環境保全に配慮した施設整備を行いました。今年度は有機肥料の出荷施設整備のためのバイオマス活用フロンティア事業を実施します。林業については、間伐などの森林施策を推進するため、森林整備地域活動支援交付金事業を実施し、森林の荒廃

## 豊かな生活を育む自然・環境をつくるまち

## 快適で安全な生活基盤築く

今日の環境問題は、水質汚濁、ごみ処理、ダイオキシンや環境ホルモン問題など複雑多様化してきており、この問題の共通の原因は、私たちの日常生活や通常の事業活動に起因し、不特定多数の人々が原因者となっており、このようなことから、環境への負荷ができる限り削減され、持続可能な社会を実現するため、町民・事業者・町それぞれの役割分担に基づき、循環型社会の構築が求められております。

「山田の海を守る」活動は、産業の中心基盤である山田湾、船越湾を次世代に引き継ぐことであり、資源の循環に向けてゴミの減量化と再資源化に取り組みます。次に住環境の整備については、下水道事業が船越処理区において、全体計画面積の百六十二・二分のうち、十六年度末で整備面積の九四・五%の整備率であり、今後は水洗化の普及促進に努めてまいります。山田処理区にお

ては、十七年度で処理場用地の取得を終了し、新たに幹線管渠布設工事に着手いたします。下水道など集合処理の対象外区域での水質汚濁防止対策としては、合併処理浄化槽設置事業を推進してまいります。

上水道事業については、中央監視データ処理設備整備事業、中央町の町道海岸中通線老朽管更新事業、柳沢北浜地区土地区画整理地内においては、配水管布設事業を実施してまいります。

柳沢北浜地区土地区画整理事業は、地区内の幹線道路である細浦柳沢線、柳沢北浜線、北浜関谷線の一部舗装などで、北つ子橋については三月末には供用開始ができるまで整備されました。また、本年度は県立山田病院の新築工事が始まる年でもあり、街路築造、北浜水路築造、宅地造成、家屋移転などを着実に進め、良好な市街地の形成に努めてまいります。

柳沢第一団地建替事業は、平成十六年度から十七年度までの二カ年の継続事業で四階建て一棟二十八戸（うち高齢者向け九戸）の三棟目のE棟が完成しますので秋ころの入居に向けて所要の整備を進めてまいります。

県道については、一般県道宮古山田線の国道までの改良、主要地方道重茂半島線の急カーブ改良、幅員拡幅などを県に要望してまいります。町道については、県代行事業での織笠・外山線は、国道取り付け工事が完成予定であり、新年度早い段階での供用開始を進めてまいります。その後、町道細浦柳